

季節の言葉

大雨時行
たいふうときどきふる

千曲市で行われている、さまざまな「まちづくり」の取り組みをお伝えします!!

ちくま未来カフェ通信

2018年(平成30年)

08.01

No. 025

編集・発行/ちくま未来カフェ通信編集委員会(千曲市/千曲商工会議所/戸倉上山田商工会) 本通信に関するお問い合わせ(千曲商工会議所)/電話:026-272-3223 メール:info@chikumacchi.jp



2018
5.26(土)
@ 更埴文化会館
(あんずホール)

特集 文化会館の“廊下”が“イベント会場”に!! 「ちくま未来フェスタ」に学ぶ イベントのつくり方

私たちの使い方次第で 変貌する地域の公共空間

更埴文化会館(あんずホール)はじめ、新体育館、図書館、公園など、多くの公共施設が集まる「屋代駅周辺まちなか地域」(屋代駅から、現在建設中の新市庁舎までの一帯)。そうしたエリアの特色を踏まえ、地域の賑わいづくりにつなげようと活動をしている人々がいます。その一つが更埴文化会館を舞台に行われている「ちくま未来フェスタ」です。市民発の公共施設活用企画としてはじまり、親子連れを中心に1日で1200人以上が集まる一大イベントとなっています。今回はそんな「ちくま未来フェスタ」に着目し、市内で行われている公共施設活用の現場の一端や、イベント企画の一部始終をご紹介します。 (編集部)



手づくり雑貨も並ぶフリーマーケット



地元建設会社の木工体験ブースも大人気



戸倉上山田地域からも多くの出店者が!



抽選会が始まると会場はすし詰め状態に

「ちくま未来フェスタ」とは

市民有志によって2017年からはじまった市民交流イベント。あんずホールのインナーコリドー(内廊下)をメイン会場にフリーマーケットや企業ブースの出店、ワークショップなどが行われている。今年で2回目の開催。

特別座談会

ちくま未来フェスタができるまで。(抜粋版)

イベント開催までの舞台裏を大公開! 正副実行委員長とイベント運営をサポートする戦略会議のメンバーに、企画当初のエピソードや開催にかける想いを聞きました。

● 座談会参加者

- * 伊藤尚子さん(実行委員長)
- * 小山待子さん(副実行委員長)
- * 篠原哲哉さん(千曲市産業振興課)
- * 小林啓利さん(千曲商工会議所)

座談会記事の全文は、 WEBサイトで公開します!!

紙面には掲載しきれなかった話題は下記のWEBサイトで公開予定。こちら併せてご覧ください!

ちくま未来カフェ | 千曲商工会議所

<http://chikumacci.jp/?cat=5>

\\ 更新予定日 //

8月13日(月)



Action!!

千曲市でなにかをはじめたい方へ

「構想はあるけど、どのように実現したらいいかわからない」「新しく商売をはじめたいけど、腕試しできるころはないかな?」など、地域に賑わいを呼び込むための企画や事業を考えている方。私たち《戦略会議》が、あなたの活動や起業をサポートをします! お気軽にご相談ください!

《お問い合わせ》千曲商工会議所

電話: 026-272-3223 メール: info@chikumacci.jp

紙面ではご紹介しきれなかった情報など、リアルタイムでまちづくりの情報発信中!

ちくま未来カフェ

公式 Facebook ページ

@chikuma.mirai.cafe

公式 Twitter

@chikuma_m_c



来賓や出店者に加え、実行委員会メンバーも一堂に会したオープニングセレモニー



次回開催
5.18(土)
2019

——《ちくま未来フェスタ》をはじめたきっかけを教えてください。

伊藤尚子(以下、伊藤): 直接のきっかけは《千曲市中心市街地活性化基本計画》(以下、中活計画)の内容を検討する会議に、私が千曲商工会議所の女性会として出席したことからですね。その時「市が中心になるのではなく、私たち市民発の企画で地域を活性化させることができないか?」という話をしたんです。最初は商工会議所の駐車場でフリーマーケットをするというアイデアもあったんですが、より公共的な空間の方がいいと思ったので、それだったら更埴文化会館(あんずホール)を使えないかと。

小林啓利: こうしたまちづくりの計画策定のために、市民のみなさんとワークショップをして計画書をつくるというのは他の自治体でもよくやっているんですが、我々の場合は特に「行動に移すこと」を意識していましたよね。その点、伊藤さんはこれまでにご自分でもフリーマーケットを企画・運営された経験もあったので、まずはとにかく形にしようって感じでした。

伊藤: そうですね。商工会議所の小林さんや千曲市産業振興課の方々には、当初からいろいろな相談に乗っていただいて。中活計画の推進役になっている《戦略会議》にも呼んでくださって、そこでは「まずは実行委員会を立ち上げた方がいいですよ」というアドバイ

スをいただいたんです。早速、この企画の趣旨に共感してくれそうな人を見定めながら、一人ひとり声をかけていったんですが……なんと、誰一人として断ることなく実行委員に加わってくれたんです! 私はそれにとっても感動して……。実は、私が口火を切ってから開催まで実質2ヶ月しかなかったんですけど、それでも実現できたのは実行委員会メンバーの想いやそれぞれのノウハウ、人脈を結集できたからこそだと思います。

篠原哲哉(以下、篠原): まちづくりの取り組みに関しては、行政側が一方的に進めるのではなく、市民のみなさんが自ら手を挙げてくださったことを我々がサポートする方がうまくいくんです。《ちくま未来フェスタ》の実施にあたって、助成金制度のご紹介などもしましたが、最終的にはご自分たちで協賛金を集めて運営するというのはすごいことですよ。

——伊藤さんの真っ直ぐな想いに共感しつつ、それぞれにスキルを持ったみなさんが集まったんですね。副実行委員長の小山さんをはじめ、実行委員長にはどんな方が集まったんでしょう?

小山待子(以下、小山): 私は普段は《シーバス・スポーツクラブ》で企画の仕事をしているのですが、そこからの出向という形で関わっています。子育て家庭にも深く関わっている

>>>> 以下、WEBサイトに続く